

# 第 I 部 生徒発表

## 「間人分校の紹介」

1年 藤田京子 藤原佳奈

私たちが通う間人分校は、生徒と先生を合わせて、60人ほどの小さな学校です。京丹後市では唯一の定時制高校で、4年間をかけてじっくり学ぶシステムであること、少人数で一人一人とふれ合う時間がたくさんあり、みんな仲が良いのが特色です。



学校目標として、

- ・将来に対する夢や目標を持ち、挑戦する姿勢を大切にします。
- ・個に応じた学習指導を大切にし、基礎基本の定着と学習意欲の向上を図る。
- ・社会教育や道徳教育を大切にし、家庭と連携をとりながら規範意識を高める。
- ・特別活動、部活動、ボランティア活動を重視して、心身の育成を図る。

の4点を掲げており、私たちは、この目標のもと、毎日、学業に励んでいます。

学習の内容は、主として普通教科です。それに、すべての学年で商業科目が加わります。学習のペースはゆっくりとしています。中には、英検、漢検、数検、ビジネス文書実務検定などの資格取得に挑戦する生徒もいます。

高校の内容だけでなく、小学校、中学校の学び直しにも力を入れており、間人分校独自の「間人式検定」を行っています。先生方の手作りのプリントに取り組み、成績の良かった人は、年度末に表彰されます。

また、「つながる力向上プログラムα」と呼んでいます。ソーシャル・スキル・トレーニングを取り入れています。これは、社会生活に欠かせないコミュニケーション能力を身に着けるためのもので、内容は間人分校の先生方が考えているそうです。

間人分校では、さまざまな活動に取り組んでいます。

海水浴シーズンを前に、観光協会の人たちと協力して実施する、後が浜清掃ボランティアは、毎年恒例の行事となっています。浜清掃の後は、野外クッキングの時間で、バーベキューをして楽しく交流しています。

3年生・4年生の先輩は茶道体験や、琴引浜に行き、豊かな自然の中で短歌を作り発表するという、短歌講座に取り組んだそうです。私たちも、11月に、百人一首をすることになっています。

定時制通信制の高校では、生活体験発表大会という大きな催しがあります。9月に各校の代表生徒による京都府大会があり、最優秀となった生徒は11月の全国大会に出場します。間人分校では、4年生による校内予選を行い、代表生徒を決定しています。

近年は、自主的にボランティア活動に取り組む生徒も増えてきました。雨の降る中、一日中、歴史街道丹後 100km ウルトラマラソンのスタッフとして活動をした人もいますし、プラスワンスタディと言って、毎週、間人小学校で活動している人もいます。

間人分校では、学年のレベルに応じた進路学習を行っています。1年生は体験型進路ガイダンス、2年生は企業見学、3年生はインターンシップといったように段階を重ね、現在、4年生は希望進路を実現するために、それぞれの取組をしています。

私たちの高校生活は、始まったばかりですが、多くのことを学び、自立した社会人への階段を上っていきたいと思います。

## 「全国大会に出場して」

## 2年 元井優穂

8月の中旬、東京の国立競技場で全国高等学校定時制通信制陸上競技大会があり、私は走り高跳び、走り幅跳び、リレーに出場しました。昨年に引き続き、2度目の出場です。今年は、高跳びで7位に入賞することができました。



国立競技場はとても広く、いつも以上に緊張しました。トラックもフィールドも、ともにタータンで、観客席もたくさんあり、一番高い所では、他の競技場では見ることのできない景色が見られます。大きなスクリーンには、決勝に出場する選手が映し出されます。名前を呼ばれて、手を挙げ一礼するだけなのですが、とても緊張しました。そして、誇らしい気持ちになりました。

全国大会で得たことがいくつかありました。一番うれしかったのが、友達ができただけです。昨年、友達になった人と今年再会し、今年初めてあった人とも、親しくなりました。全国大会に出場したからこそ、京都府以外の人とも話げことができました。新しくできた友達と話すことで緊張がほぐれ、リラックスすることができました。

昨年、愛知県の人と友達になりました。彼女は今年、走り高跳びで1メートル60センチの大会記録を樹立しました。私は、自分のことのようにうれしくて、手を取り合って喜びました。そして、このことが私にとって、とても励みになりました。

実は、高跳びの結果が、昨年は4位で今年が7位だったので、とてもくやしかったです。来年は、一つでも順位が上がるようにトレーニングや実践練習、フォームの確認をしっかりやっていきたいです。そして、4年生の時には、3位以内に入りたいです。

全国大会に参加して学んだことは、自分一人で競技に参加しているのではなく、引率の先生方、京都府の代表メンバー、友達、家族、学校のみならず、たくさんの人の応援や協力があって、今、自分がここにいるということです。感謝の気持ちを忘れず努力を積み重ね、来年もまた、友達との再会を果たしたいと思います。

## 「インターンシップを終えて」

3年 田中秀明

今回、私が発表させていただくのは、今年の九月十日から九月十三日にかけて取り組んだインターンシップの体験談です。

私のインターンシップ先は、峰山図書館でした。私は書物が好きで、司書にあこがれているという思いを先生たちに話したところ、図書館で実習ができるようにと計らってもらえました。そのおかげで、自宅に近い峰山図書館で実習ができたのです。

先にも述べましたが、私は司書にあこがれています。ゆえに、インターンシップはとても張り切りました。

図書館での仕事は多岐に渡ります。新刊図書の整理や、赤ちゃんや幼児などへの絵本の読み聞かせ、それにイベントのチラシ作りなどがあります。その中でも一番好きで楽しい仕事は、利用者から返却された図書を、書棚に戻す仕事です。ちなみにその仕事は正式には「配架（はいか）」といい、書棚は「書架（しょか）」というそうです。

なぜ私が、図書の返却が好きかというと、仕事の中で一番本と接する時間が長いからです。しかし、私にとっては一番楽しい返却の仕事ですが、逆に我慢の時間でもありました。なんせ私は本が好きですから、魅力的なタイトルや表紙を見つけてしまうと、ついついその本を開いてしまいたくなる衝動に駆られるのです。その中に、どんなことが書かれているのか、どんな世界が広がっているのかと思うと心躍ります。ですが、私はじっと我慢をして、仕事を全うすることができたと思います。

仕事をするということは、自分以外の人や社会の役に立つということだと思います。仕事をしている時間は、プライベートな時間ではありません。インターンシップを終えて、公私のけじめをつけることが大切なのだと気づきました。

最後に、峰山図書館の職員の皆様、図書館の利用者の皆様には大変お世話になりました。そして、私のつたない発表に最後まで耳を傾けてくださった皆様、本当にありがとうございました。

図書館はワンダーランド、魅惑の小宇宙です。どうぞ皆様も図書館のご利用をお願いいたします。



## 「チャレンジ」

4年 蛭子郁弥

入学したころは「4年間って長いな」と言っていたのに、高校生活もあとわずかとなりました。今は、希望する進路の実現や、卒業に向けて頑張っています。



私の家から間人分校までは自転車で1時間近くかかります。また、定時制であり、他の高校よりも1年多く通わなければいけません。それでも間人分校に行こうと決めたのは理由があります。

私は、小学校の高学年のころからいじめを受けるようになりました。引っ込み思案で何も言い返せなかったのでいじめやすかったのかもしれませんが。仲間はずれにされてクラスの輪に入れてもらうことがありませんでした。

中学校に入学して1年目は大丈夫でしたが、2年生になってクラス替えをしたとたんに、また、仲間はずれにされるようになりました。小学校の時のことを知っている人が言い出したのがきっかけでしたが、クラスで発言力のある、元気のいい子たちを中心に、仲間はずれをする人は増えていきました。学校は休まずに行こうと頑張っていました。体育祭の練習などの、集団で活動する輪の中には入ることができませんでした。先生にも相談をしましたが、いじめの状況は変わらず、中学校を卒業するまで続けました。

高校受験の時は、どこの高校にしようかと迷いました。みんなと同じ高校に行ったらまたいじめられるかもしれないと思い、知った人がいない高校に行こうと考えました。間人分校に見学に行ってみると、少人数で、授業の雰囲気も良く、先生と生徒が会話をする様子も明るくて、ここでなら頑張れると思い、間人分校に決めました。

入学前は「またいじめられるのかな。」「一人ぼっちになったらどうしよう。」という不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、中学校でのいじめを知っている人がいなかったせいか、高校に入学してからはいじめられることもなく、クラスの仲間とも話せるようになっていきました。5月、6月は球技大会、海岸清掃とバーベキューといった行事があり、学年の枠を超えた班構成で、先輩とのつながりも強くなりました。仲の良い友人ができると、さらにその輪が広がって友達が増えていきました。「これがいじめのない生活か……。」と改めて実感しました。

高校では文化祭や体育祭の練習、その他の学校行事など、他の人たちと同じように参加することができました。学校行事への参加は、多くの人にとっては当たり前のことかもしれませんが、その当たり前のことが中学時代にはできませんでした。今は、こんなにも簡単に参加できるようになって、とてもうれしい気持ちです。クラスの輪の中にいるということで、今まで引っ込み思案で受け身だった私が少しずつ変わっていきました。自分の意見を持ったり、積極的に発言をしたり、以前は人の目を気にして目立たないようにしてきた自分が変わっていくのを感じました。今までしてこなかったことにも挑戦してみようと思った時に、先輩から生徒会役員に誘われました。去年、生徒会として取り組んだ行事の中では、文化祭が一番印象に残っています。準備や司会など大変でしたが、生徒会の役員でダンスの発表も行い、とても充実していました。今は、前よりも強くなった自分を意識するようになりました。去年の文化祭では友人と漫才にも挑戦し、笑いをとることができたので、今年もステージに立つ準備を進めています。

中学校までは、人前に立って自分が何かをするなんて考えられませんでした。しかし、

そんな私が、高校生活の中で多くのことを経験し、少しずつ自信をつけ、今まで自分がやってこなかったことにチャレンジする勇気を持つことができました。

生徒会や生活体験発表などで大勢の人の前で話をする、体育祭や文化祭でみんなと協力して何かをやりとげることなど、自分から積極的に行動することを高校生活の中で学びました。

将来は、調理師免許を取っていつか自分の店を出したいと思っています。おいしいものを食べた時、人は笑顔になります。自分が作った料理を「おいしい」と言って喜んでもらいたい。だから、調理師として働きたいと考えました。こんな夢を持つようになったことから、この間人分校に入って自分が成長したことを実感します。人のために何かをする、人の笑顔がみたい、そんな夢を持つことができました。

私はこの学校に来て本当に良かったです。この学校で友人を得たこと、そしてたくさん学んだことを、この先の人生に活かしていきたいと思います。